

第4章 現状と課題

4-1 名勝全域の現状と課題

名勝三保松原は、南北に約5 km、総面積約250 haに及び、砂浜、松原のほか、住宅地、農地、文教施設等も分布する。三保松原はエリアによって環境が大きく異なるが、まずは全域を見渡し保全と活用について現状と課題を整理し、その後、5つのエリアに分け、それぞれの現状と課題を記載する。

(1) 全域での現状

外浜の砂浜では、昭和50年代後半から海岸侵食が進み、侵食対策を継続している。また、世界遺産登録時にイコモスより、従来の消波ブロックを積み上げた消波堤が富士山の眺望を阻害するとの勧告を受け、消波堤を突堤等に置き換える景観改善事業を進めている。

松原では、かつてはマツ材線虫病による松枯れが深刻だったが、徹底した防除事業により平成29年（2017年）度に微害化を達成し、現在（令和5年（2023年）度）まで微害状態を継続している。しかし、それ以外の松枯れや倒木等も発生している。また、健全な松原を維持するためには、草刈り、松葉かき、つる除去のような日常的な管理も不可欠だが、所有者が国・県・市・民間と複雑に入り込み、一体的に管理が行えない状況である。さらに近年、特定外来生物を含む外来植物も、松原や海浜植生の中に侵入し急速に増加している。世界遺産登録以降、管理方法を確認するため名勝地内の土地の所有者調査を実施したが、土地の境界確定が進んでおらず、所有者を明らかにできないことが多い。

富士山への眺望は、マツの成長や海岸の侵食により年々変化している。内陸部では、大規模建築の計画は無いが、耕作放棄農地の増加により景観が変化している。

三保半島への公共交通機関は、三保街道を通る路線バスと三保^{さんぼし}棧橋への水上バスがあるが、自家用車や貸切バスを利用する来訪者が多い。ガイドンス施設で名勝地内各所の眺望点を紹介しており、半島内ではシェアサイクルの活用も進んでいる。砂浜対応車椅子の貸し出し等も行っているが、観賞施設の管理が不十分でアクセスが難しい場所が多い。

保全活動の支援を行うガイドンス施設を拠点として、年間通じて松葉かきやゴミ拾いのボランティア活動が盛んに行われ、保全で生じた落ち松葉や海岸漂着物を活用する取り組みも注目されているが、施設から離れたエリアでは人手が不足している。三保半島の人口減少が進み人の目が行き届かなくなっていることによる、不法投棄など治安の悪化も懸念されている。三保松原の中心的存在である御穂神社と羽車神社にはそれぞれ氏子組織があり、祭事等を継続しているが、高齢化も進んでいる。

(2) 全域での課題

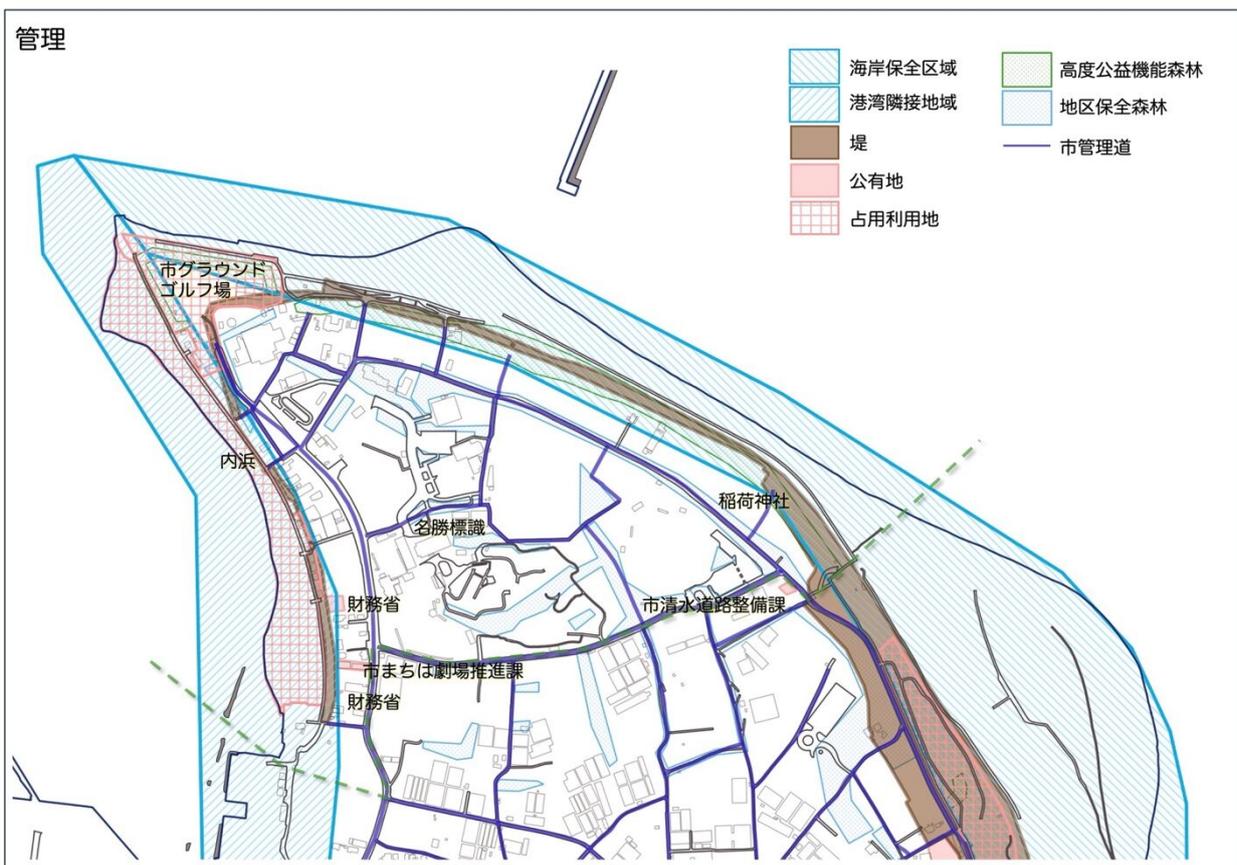
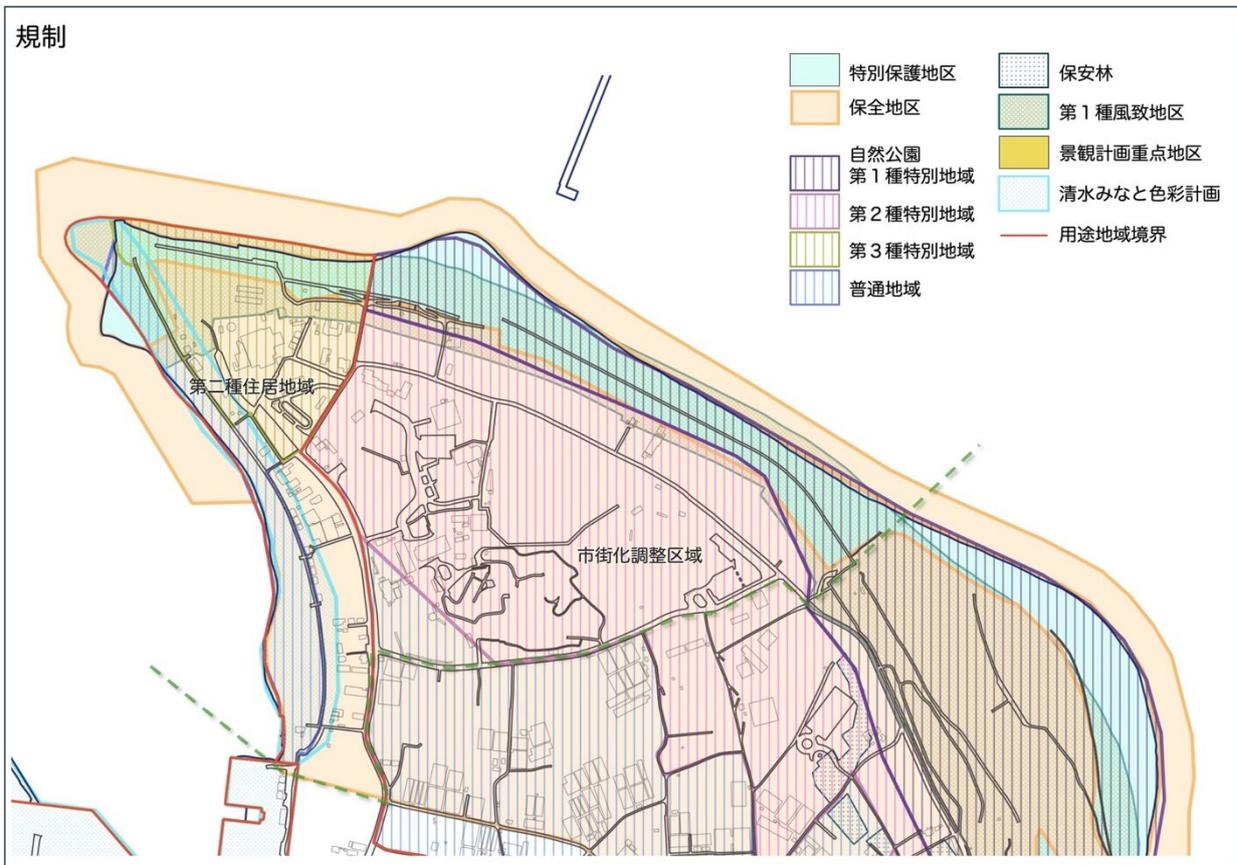
- ・砂浜の侵食防止や景観改善のための、長い時間と莫大な予算の確保。
- ・複合的な原因による松原の減少に対する、現状の松原保全事業の継続と、新たな問題への順応的管理。
- ・保全活用に係る役割分担や境界確定についての、関係者の理解促進。
- ・名勝に相応しい景観や各種法令についての、関係者の理解促進。
- ・近隣地域の高齢化と人口減少の進行に対する、関係人口拡大。
- ・近隣住民及び来訪者のための、良好な観賞環境と安全の確保、気軽に保全活動に参加できる環境整備。
- ・持続可能な保全のための、松原資源の活用。

4-2 エリアごとの現状と課題



エリア	松原	砂浜	富士山眺望	利用状況等
1. 真崎内浜 <small>まさきうちほま</small>	多い	一部 広い	見える	三保松原としての富士山の眺望の素晴らしさが十分に周知できていない。
2. 吹合岬 <small>ふきあみさき</small>	多い	とても 広い	高所から 見える	富士山を望む海に開けた公園等があるが、十分に活用できていない。
3. 大山 <small>おおやま</small>	やや 少ない	狭い	見える	工事のため砂浜へ立ち入りができないこともあり、十分に回遊促進できていない。
4. 羽衣 <small>ほごろも</small>	とても 多い	一部 広い	見える	ここでの保安全管理や来訪者対策を三保松原全域に広げていく必要がある。
5. 折戸 <small>おりど</small>	少ない	狭い	少し 見える	砂浜沿いにマツが少なく、松原への意識を育みにくい。

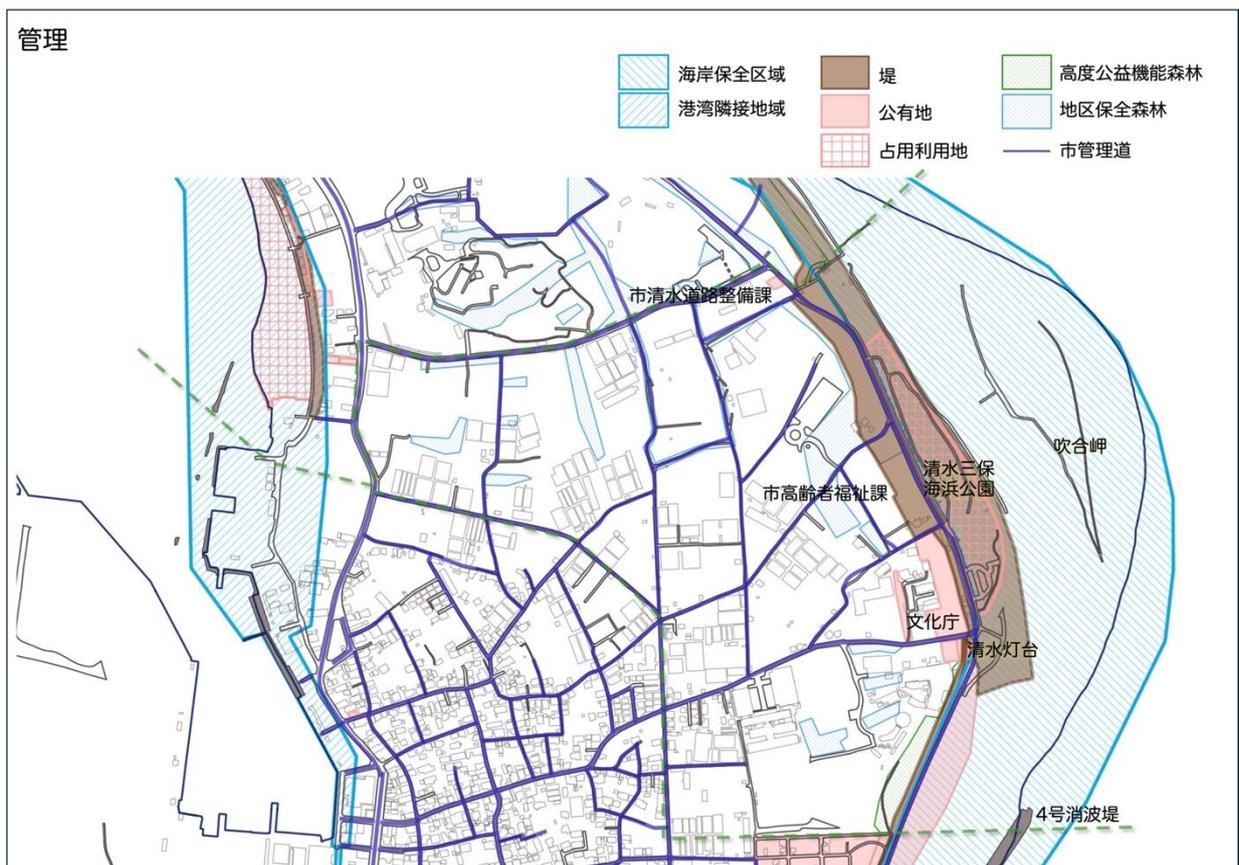
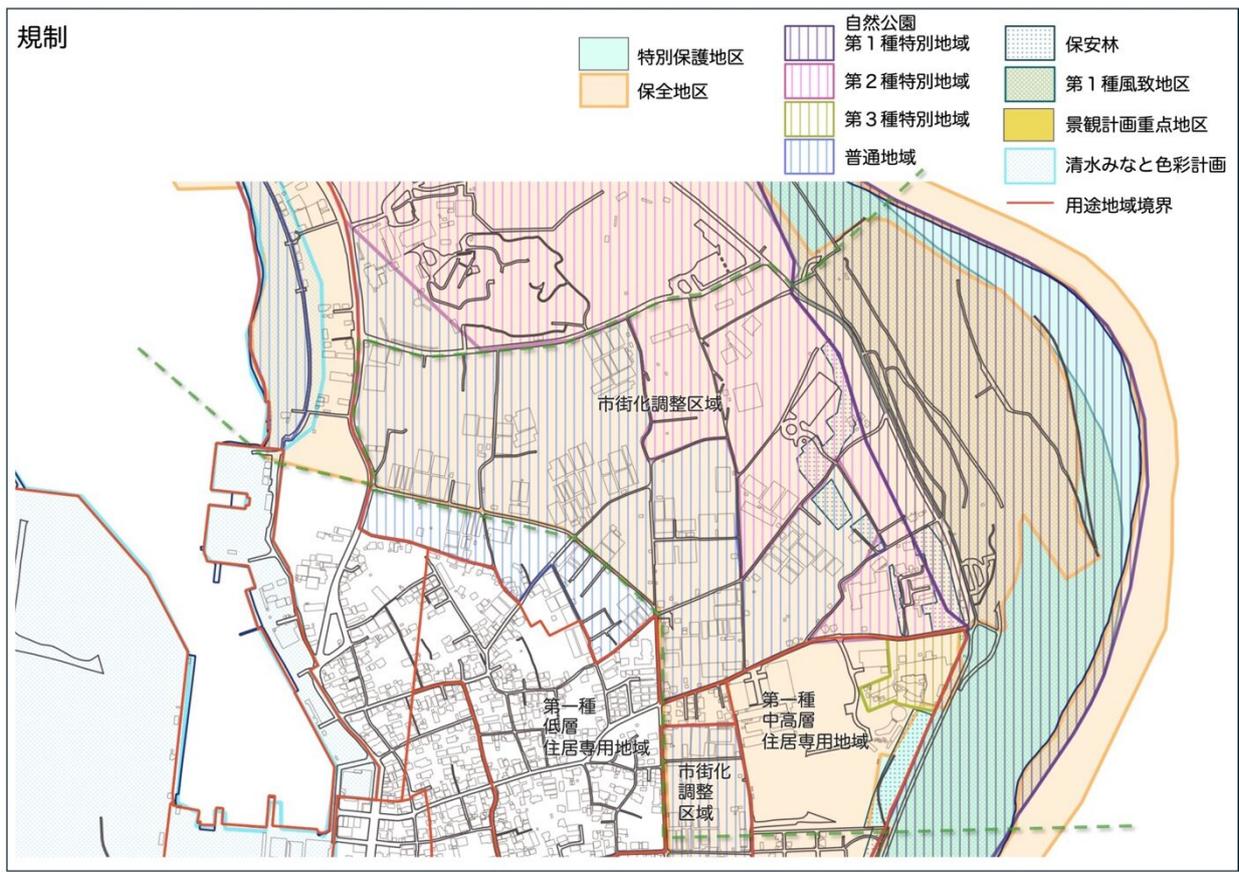
1. 真崎内浜エリア



海岸線、都市計画情報は令和5年(2023年)時点

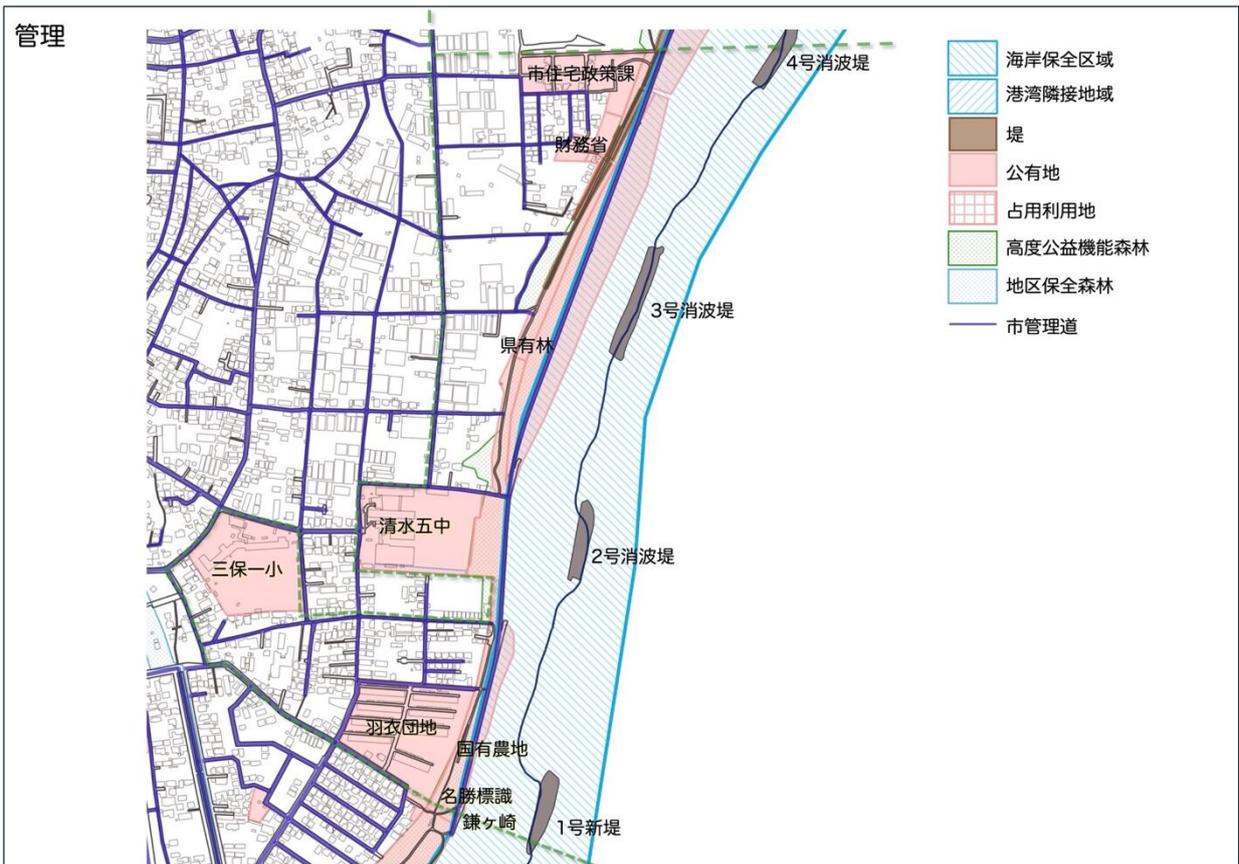
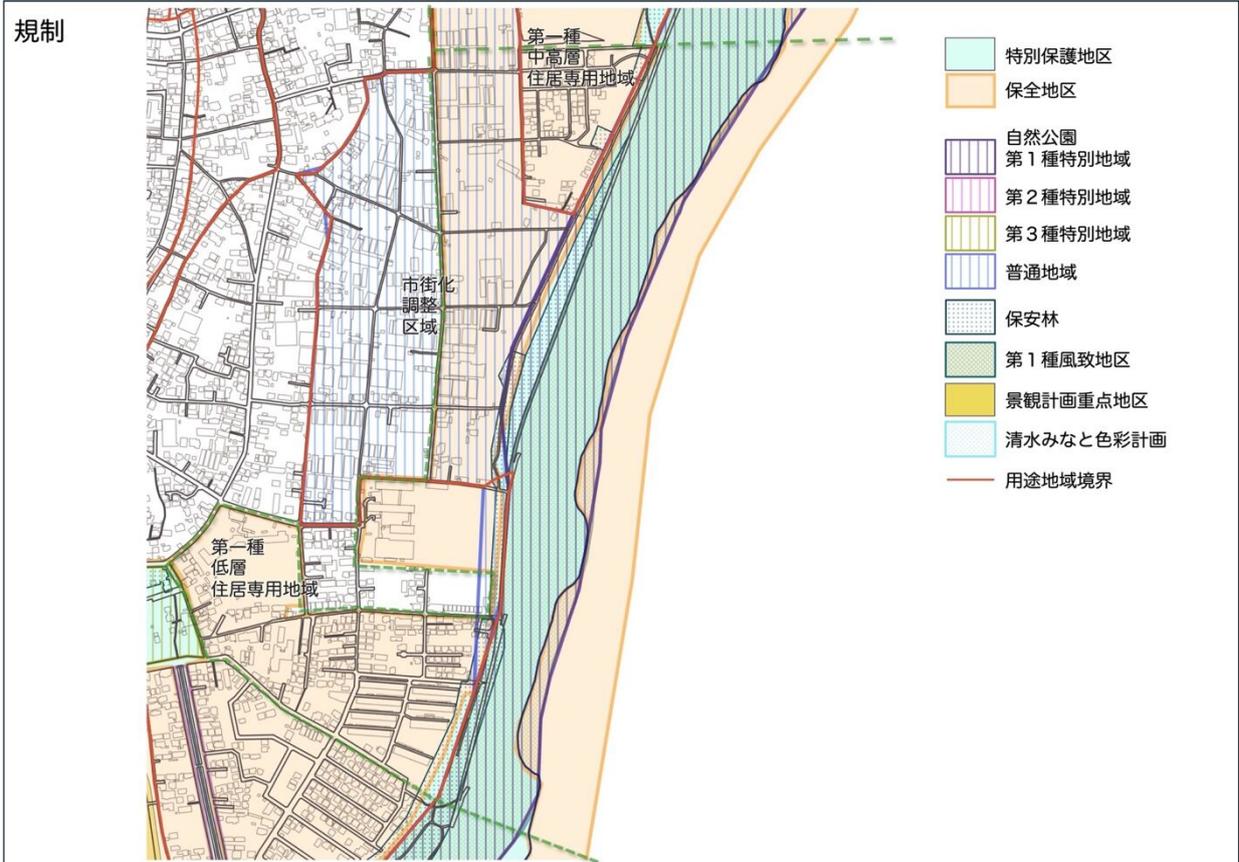
1. 真崎内浜エリア											
現況	半島の先端で雄大な富士山を望める、海岸でのレクリエーションが盛んなエリア										
理想の姿	三保松原で最も間近に富士山を望めることを強みとした新たな活用が展開し、多くの人を訪れることでさらに保全が進む、海路の玄関口										
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">現状</th> <th style="width: 50%;">課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>砂浜沿い及び三保灯台通り（外浜側市道）沿いに樹高の高いマツが連なり、海上から連続した松原を望むことができる。</p> <p>国有浜地、堤、民有地の松原は下層植生が多く立ち入ることが難しい状態で、被圧による枯れが生じている。台風等の接近時に大径のマツが倒伏することもあり、過去に複数の財産や電線通信線の被害が生じている。</p> <p>内浜ではマツ材線虫病予防薬剤散布が実施できていない。</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・所有者が多岐に渡る松原での、地域と連携した日常的管理の実現 ・老齢木の一体的な倒伏対策 ・マツ材線虫病予防薬剤散布の拡充に向けての理解促進 </td> </tr> <tr> <td> <p>3本の砂嘴の中で最も新しい嘴。外浜は約5m、内浜は約2.5mの防潮堤を設置しており、その外側の砂浜幅は場所によって異なる。</p> <p>浜幅が狭いところでは、高潮や高波での越波や防潮堤の破損被害を受けやすい。</p> <p>外来植物の群落が急速に拡大している。</p> <p>ボートの放置や漂着ゴミ、釣りゴミが多い。砂浜近くまで車両で進入でき、人目が少ないことから、不法投棄や野良猫に関するトラブルも比較的多い。ボランティアが砂浜と海中の清掃活動を定期的に行っている。</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・景観を阻害しない越波対策 ・防潮堤内側の海岸保全区域や堤など、管理者による管理が困難な砂浜での、地域と連携した日常的管理の実現 ・海岸保全のための啓発 </td> </tr> <tr> <td> <p>外浜では、間近に海越しの富士山を望め、大型船入港時等には多くの人を訪れる。しかし、過去に整備された遊歩道や植栽などの観賞施設は管理が不十分な状態にある。</p> <p>内浜では海上から松原越しの富士山を望める。</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・観賞施設の維持管理 </td> </tr> <tr> <td> <p>文教施設、宿泊施設が多い。三保棧橋周辺では年間通じてマリンスポーツが盛んで臨海学習の場になっており、夏季の海水浴場やマルシェ等のイベントも開催している。砂嘴先端のグラウンドゴルフ場については、富士山眺望を活かした新たな利用方法への転換を計画している。バスや水上バスによる清水区中心市街地からのアクセスがある。</p> <p>外浜松原内に稲荷神社がある。掩体壕がエリア近隣含め7箇所8基ある。</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・三保棧橋から名勝全域へのアクセス支援 ・名勝全域への回遊促進 ・名勝の価値や地域の歴史についての理解促進と新たな活用の両立 </td> </tr> </tbody> </table>	現状	課題	<p>砂浜沿い及び三保灯台通り（外浜側市道）沿いに樹高の高いマツが連なり、海上から連続した松原を望むことができる。</p> <p>国有浜地、堤、民有地の松原は下層植生が多く立ち入ることが難しい状態で、被圧による枯れが生じている。台風等の接近時に大径のマツが倒伏することもあり、過去に複数の財産や電線通信線の被害が生じている。</p> <p>内浜ではマツ材線虫病予防薬剤散布が実施できていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者が多岐に渡る松原での、地域と連携した日常的管理の実現 ・老齢木の一体的な倒伏対策 ・マツ材線虫病予防薬剤散布の拡充に向けての理解促進 	<p>3本の砂嘴の中で最も新しい嘴。外浜は約5m、内浜は約2.5mの防潮堤を設置しており、その外側の砂浜幅は場所によって異なる。</p> <p>浜幅が狭いところでは、高潮や高波での越波や防潮堤の破損被害を受けやすい。</p> <p>外来植物の群落が急速に拡大している。</p> <p>ボートの放置や漂着ゴミ、釣りゴミが多い。砂浜近くまで車両で進入でき、人目が少ないことから、不法投棄や野良猫に関するトラブルも比較的多い。ボランティアが砂浜と海中の清掃活動を定期的に行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・景観を阻害しない越波対策 ・防潮堤内側の海岸保全区域や堤など、管理者による管理が困難な砂浜での、地域と連携した日常的管理の実現 ・海岸保全のための啓発 	<p>外浜では、間近に海越しの富士山を望め、大型船入港時等には多くの人を訪れる。しかし、過去に整備された遊歩道や植栽などの観賞施設は管理が不十分な状態にある。</p> <p>内浜では海上から松原越しの富士山を望める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観賞施設の維持管理 	<p>文教施設、宿泊施設が多い。三保棧橋周辺では年間通じてマリンスポーツが盛んで臨海学習の場になっており、夏季の海水浴場やマルシェ等のイベントも開催している。砂嘴先端のグラウンドゴルフ場については、富士山眺望を活かした新たな利用方法への転換を計画している。バスや水上バスによる清水区中心市街地からのアクセスがある。</p> <p>外浜松原内に稲荷神社がある。掩体壕がエリア近隣含め7箇所8基ある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三保棧橋から名勝全域へのアクセス支援 ・名勝全域への回遊促進 ・名勝の価値や地域の歴史についての理解促進と新たな活用の両立
現状	課題										
<p>砂浜沿い及び三保灯台通り（外浜側市道）沿いに樹高の高いマツが連なり、海上から連続した松原を望むことができる。</p> <p>国有浜地、堤、民有地の松原は下層植生が多く立ち入ることが難しい状態で、被圧による枯れが生じている。台風等の接近時に大径のマツが倒伏することもあり、過去に複数の財産や電線通信線の被害が生じている。</p> <p>内浜ではマツ材線虫病予防薬剤散布が実施できていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者が多岐に渡る松原での、地域と連携した日常的管理の実現 ・老齢木の一体的な倒伏対策 ・マツ材線虫病予防薬剤散布の拡充に向けての理解促進 										
<p>3本の砂嘴の中で最も新しい嘴。外浜は約5m、内浜は約2.5mの防潮堤を設置しており、その外側の砂浜幅は場所によって異なる。</p> <p>浜幅が狭いところでは、高潮や高波での越波や防潮堤の破損被害を受けやすい。</p> <p>外来植物の群落が急速に拡大している。</p> <p>ボートの放置や漂着ゴミ、釣りゴミが多い。砂浜近くまで車両で進入でき、人目が少ないことから、不法投棄や野良猫に関するトラブルも比較的多い。ボランティアが砂浜と海中の清掃活動を定期的に行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・景観を阻害しない越波対策 ・防潮堤内側の海岸保全区域や堤など、管理者による管理が困難な砂浜での、地域と連携した日常的管理の実現 ・海岸保全のための啓発 										
<p>外浜では、間近に海越しの富士山を望め、大型船入港時等には多くの人を訪れる。しかし、過去に整備された遊歩道や植栽などの観賞施設は管理が不十分な状態にある。</p> <p>内浜では海上から松原越しの富士山を望める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観賞施設の維持管理 										
<p>文教施設、宿泊施設が多い。三保棧橋周辺では年間通じてマリンスポーツが盛んで臨海学習の場になっており、夏季の海水浴場やマルシェ等のイベントも開催している。砂嘴先端のグラウンドゴルフ場については、富士山眺望を活かした新たな利用方法への転換を計画している。バスや水上バスによる清水区中心市街地からのアクセスがある。</p> <p>外浜松原内に稲荷神社がある。掩体壕がエリア近隣含め7箇所8基ある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三保棧橋から名勝全域へのアクセス支援 ・名勝全域への回遊促進 ・名勝の価値や地域の歴史についての理解促進と新たな活用の両立 										
松原											
砂浜											
眺望											
利用状況											

2. 吹合岬エリア



2. 吹合岬エリア		
現況	半島の中で最も浜幅が広く、灯台、飛行場、公園など海に開けた施設があるエリア	
理想の姿	幅の広い砂浜を活かした新しい視点での富士山の眺望を提供することで、集う人々の保全意識を高めることのできるエリア	
	現状	課題
松原	<p>砂浜や三保灯台通り沿いに樹高の高いマツが連なり、灯台部分以外は海上から連続した松原を望める。農地内にも老齢大木が点在する。</p> <p>国有地や堤の松原は下層植生が多く立ち入ることが難しい状態で、被圧による枯れが生じている。台風等の接近時に大径のマツが倒伏することもあり、過去に複数の財産や電線通信線の被害が生じている。</p> <p>民有地等で、マツ材線虫病予防薬剤散布が実施できておらず、マツ枯れ被害がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者が多岐に渡る松原での、地域と連携した日常的管理の実現 ・老齢木の一体的な倒伏対策 ・マツ材線虫病予防薬剤散布の拡充に向けての理解促進
砂浜	<p>安倍川からの漂砂の終着点で、海拔約6mの土堤の外側に広がる砂浜は、サンドリサイクル養浜の砂採取地になっている。4号消波堤の北は浸食傾向で高潮や高波での越波被害を受けやすい。灯台以南は海拔約10mの強固な防潮堤がある。</p> <p>広い砂浜には希少種のハマボウを含む海浜植物が群生するが、外来植物も増加している。</p> <p>漂着ゴミや釣りゴミが多く、ボランティアが砂浜と海中の清掃活動を定期的に行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サンドリサイクルの継続 ・広い砂浜の活用 ・防潮堤内側の海岸保全区域や堤など、管理者による管理が困難な砂浜での、地域と連携した日常的管理の実現 ・海岸保全のための啓発 ・松原保全のための外来植物駆除
眺望	<p>灯台とともに松と富士山を望める。富士山眺望の前景に、丈の高い草、堤、防潮堤がある。</p> <p>広い砂浜には駐車場付きの公園がありアクセスしやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富士山眺望の認知度向上 ・富士山眺望の確保のための、海岸保全区域の草刈
利用状況	<p>名勝指定以前から、地形を活かした飛行場や清水灯台がある。清水三保海浜公園でのイベントや清水灯台の一般公開など、人が集まりつつあるが、宿泊施設の休業により、来訪者が休憩、飲食、宿泊できる場所が不足している。</p> <p>飛行場については、三保松原の保全や地域づくりの一助となる機能の追加を計画している。</p> <p>促成栽培発祥の地として、温暖な気候と水捌けの良い土地を活かした農産物が生産されているが、特産品としての認知度が低い。</p> <p>堤に不法占拠の建築物がある。内陸部では不法投棄や物品不適正保管が比較的多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・名勝保全のための飛行場活用 ・航路標識協力団体制度を活かした清水灯台の活用 ・飲食、休憩、宿泊等、観賞に係る施設の整備 ・農産物の魅力発信 ・不法占拠対策 ・不法投棄対策

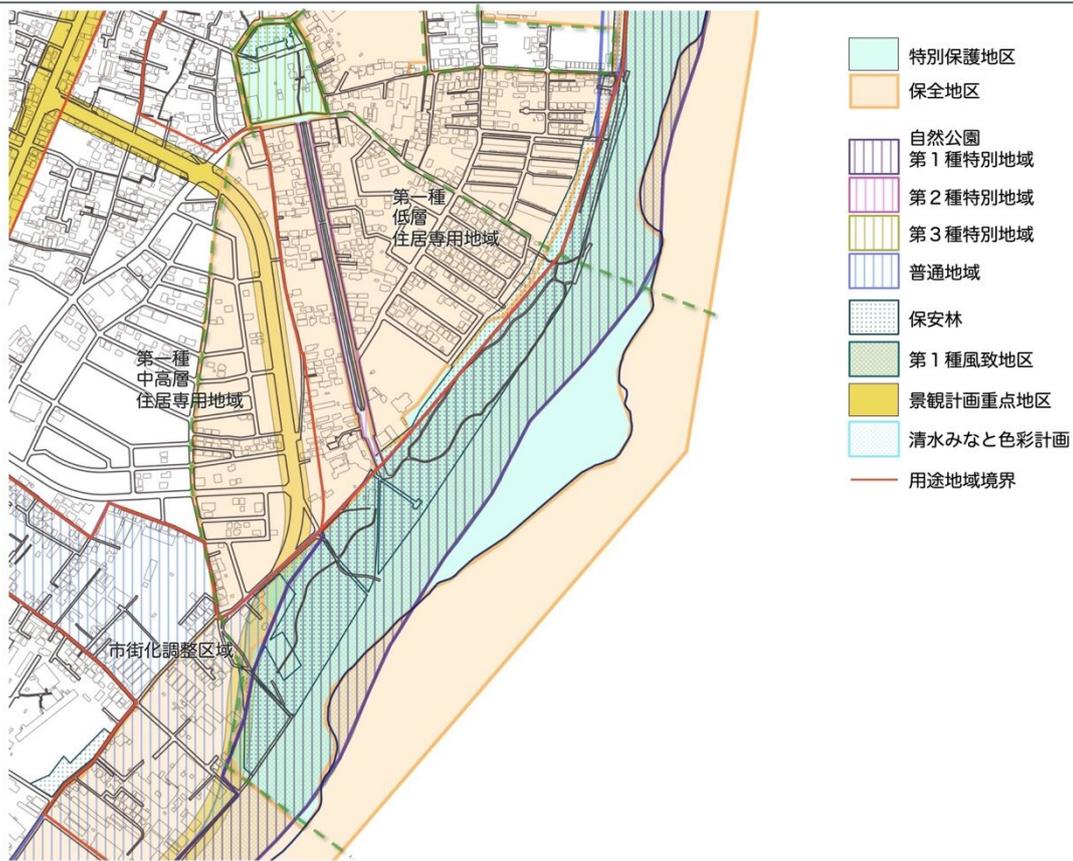
3. 大山エリア(清水第五中学校裏)



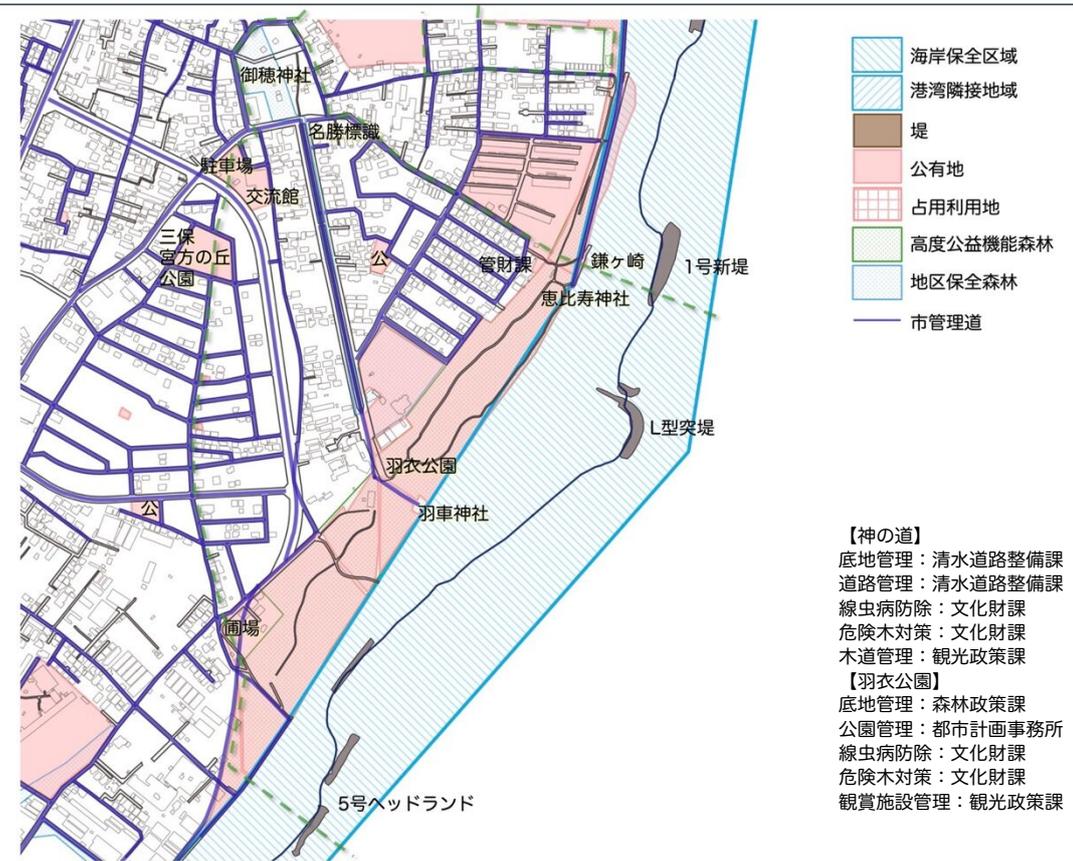
3. 大山エリア（清水第五中学校裏）		
現況	旧来の富士山眺望地「鎌ヶ崎」からの景観を構成する重要なエリア	
理想の姿	多くの近隣住民が訪れ、三保松原の魅力や価値を認識するエリア。 羽衣エリアや吹合岬エリアから多くの来訪者が回遊するエリア。	
	現状	課題
松原	<p>林帯幅が狭いながらも砂浜沿いに松原が続き、海上や砂浜の眺望点から連続した松原を望むことができる。</p> <p>県有地では、計画的な防災林育成を行っている。国有農地では、管理者と地域住民が草刈り、松葉かきを行っている。</p> <p>外来植物が急速に増加している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外来植物から松原を守るための対策検討
砂浜	<p>全域に海拔約 10m の強固な防潮堤があり、その外側の浜幅は狭い。突堤及び 1～3 号消波堤部分では砂が保持されているが、それ以外は侵食傾向で、高潮による越波被害を受けることがある。毎年の養浜工事により浜崖になっていて海浜植物は少ない。</p> <p>特定外来生物を含む外来植物の群落が急速に拡大している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・侵食対策事業と景観改善事業の継続 ・松原保全のための外来植物駆除
眺望	<p>羽衣の松周辺からの富士山眺望の景観改善のため、1号新堤を平成 31 年（2019 年）に設置し、1号消波堤の撤去を進めている。2,3号消波堤は、景観改善の途上にあり、消波ブロックが富士山眺望を阻害している。</p> <p>自転車道及び砂浜から富士山と松原と海を望めるが、認知度が低い。養浜工事や景観改善工事により、砂浜の大部分には立ち入りできない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・景観改善事業の継続 ・景観改善事業の認知度向上 ・富士山眺望の認知度向上 ・近隣からの徒歩、自転車での回遊促進
利用状況	<p>旧三保村の中心部に近く、松原に隣接して住宅、農地、工場や文教施設が混在しており、接道が少なく来訪者向けの駐車場が無い。</p> <p>太平洋岸自転車道や林内の通路は、地域住民や観光客が散策、ジョギング、サイクリングで訪れている。</p> <p>市の依頼を受けて自治会組織が自転車道の清掃を定期的に行っているが、高齢化により担い手が減少している。</p> <p>地域の小中学校では、松原や羽衣伝説を総合学習の題材として扱っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣からの徒歩、自転車での回遊促進 ・学区外の児童生徒も巻き込んだ教育活動の展開

4. 羽衣エリア

規制



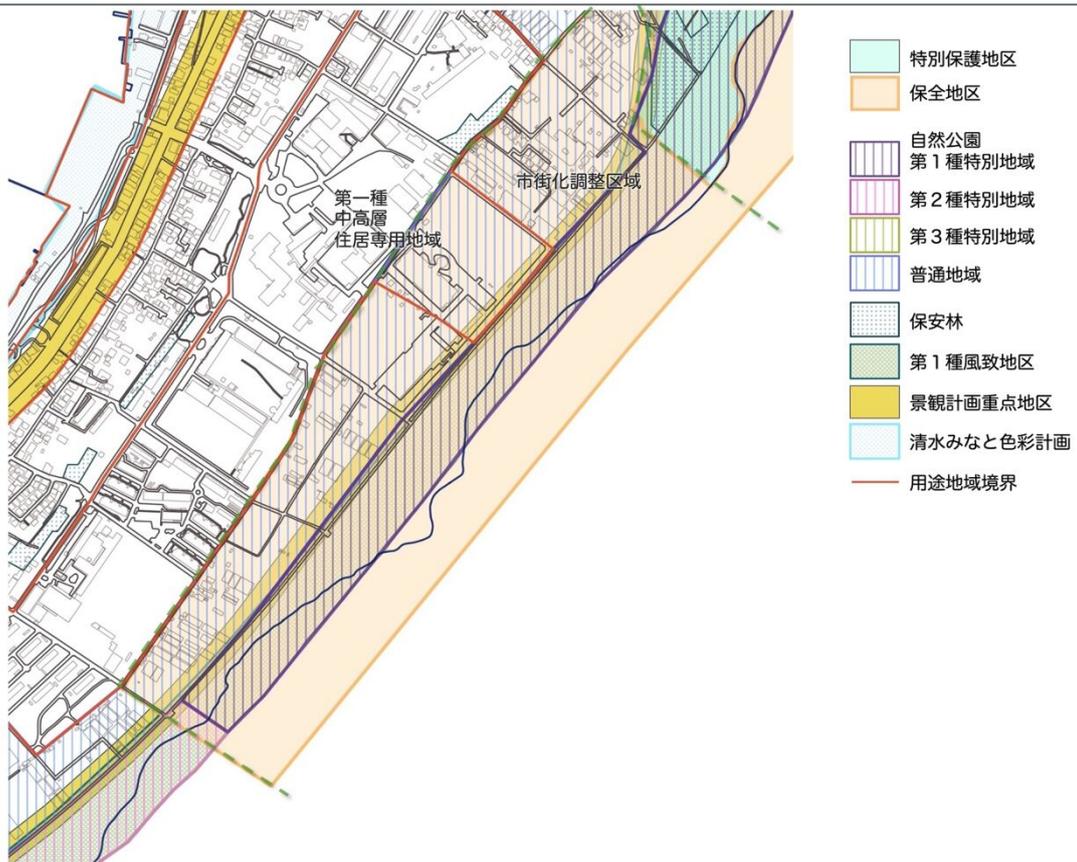
管理



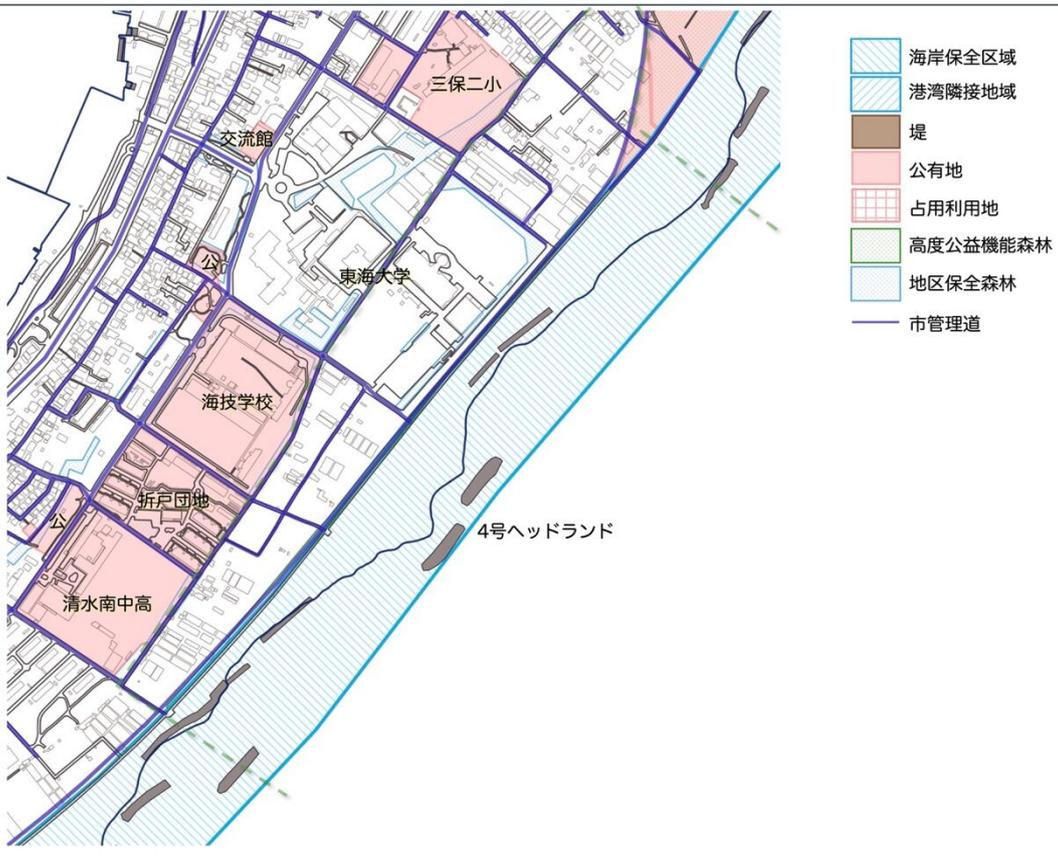
4. 羽衣エリア		
現況	多くの来訪者がある、三保松原の中核と言えるエリア	
理想の姿	松原、砂浜、海、富士山の眺望や羽衣伝説に関する社寺が、三保松原の価値を最もよく表すエリア。ここでのガイドンス施設見学、保全体験を通して、三保半島全域への価値理解を広げることができる。	
	現状	課題
松原	<p>名勝内で最も林帯幅が広く、砂浜から豊かな松原を望むことができる。</p> <p>羽衣の松周辺及び神の道では、倒伏対策、危険枝除去、遊歩道整備、踏圧対策等を実施している。一部の過密な部分で間伐を進めており、圃場で後継マツの苗生産に取り組んでいる。</p> <p>松原の海・陸両側ともに防潮堤や堤が無く、砂浜や住宅街への土砂の流出が進んでいる。</p> <p>ボランティアによる松葉かき、草取りが最も盛んなエリアである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老齢大木の長期継続的維持管理 ・羽衣の松周辺の土壌環境改善と表砂流出防止 ・遊歩道維持管理 ・松原に隣接する住宅地への越境枝、枯れ枝や松葉の落下、土砂流出対策
砂浜	<p>平成12年(2000年)のL型突堤設置以降安定して保たれている羽衣の松前面の砂浜が、令和6年(2024年)に海岸保全施設に指定された。八木地先は侵食傾向にあり、高潮被害が生じている。</p> <p>希少種ハマネナシカズラを含む海浜植物が群生するが、外来植物も増加しつつある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸保全施設指定の認知度向上 ・侵食対策事業の継続 ・松原保全のための外来植物駆除
眺望	<p>1990年代以降侵食の進んだ八木地先からの海越しの富士が、現在の三保松原を代表する眺望となっている。</p> <p>眺望点までは、起伏のある砂地を200m以上歩く必要があり、浜崖もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・景観改善事業の認知度向上 ・浜崖の解消 ・眺望点へのアクセス支援
利用状況	<p>旧来の観光の中心地で、神社、ガイドンス施設、駐車場、商店、宿泊施設や生涯学習施設もあるが、第1種低層住居専用区域であり、周辺には住宅が密集している。</p> <p>ガイドンス施設に隣接した普通車駐車場のほか、離れた位置にバス駐車場と臨時駐車場がある。</p> <p>羽衣の松周辺の市有地及び御穂神社、羽車神社の境内地に多くの碑が、羽衣公園西エリアには複数の地蔵、墓、祠が、鎌ヶ崎の市有地には碑の他に恵比寿神社がある。</p> <p>御穂神社、羽車神社それぞれに氏子組織があり、祭事や芸能を継承している。羽衣の舞、忌火起こしは、祭事以外の地域行事にも発表の場を持つ。羽衣公園みほしるべ前広場では、薪能やマルシェ等のイベントを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バス駐車場及び臨時駐車場(バス乗降場、世界遺産三保松原バス停)からガイドンス施設等へのアクセス支援 ・ガイドンス施設から眺望点へのアクセス支援 ・ガイドンス施設から他エリアへの回遊促進 ・碑などの古い工作物の安全対策 ・イベント時の駐車場不足対策

5. 折戸エリア

規制



管理



5. 折戸エリア		
現況	半島の付け根に近い三保松原の陸路の玄関口で、文教施設が連なるエリア	
理想の姿	地域住民や文教施設に親しまれる松並木と砂浜が、多くの来訪者を迎える、陸路の玄関口	
	現状	課題
松原	<p>名勝指定当時は砂浜沿いにマツが無かったが、1970年代以降植栽を始め、砂浜沿いに断続的に松並木が連なる。</p> <p>マツの無い部分では、地域の関係者が連携して幼マツの育成を進めている。</p> <p>近隣の名勝地外の文教施設等にも多くのマツがあり、そのうちの一部についてマツ材線虫病予防薬剤散布を実施している。半島南西部の沿岸からのマツ材線虫病拡大を阻止するために重要なエリアである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市道羽衣海岸線緑地帯マツ育成体制の整備 ・マツ材線虫病予防薬剤散布の拡充に向けての理解促進
砂浜	<p>全域に海拔約8mの防潮堤があり、その外側の浜幅は全体的に狭い。4,5号ヘッドランド上手では砂が保持され海浜植物が群生し、近隣の文教施設の調査研究フィールドになっている。それ以外は侵食傾向で、養浜工事により浜崖になっており、海浜植物は少ない。</p> <p>砂嘴の付け根部分である駒越と折戸のあいだは、かつて海で隔てられていたという記録も残るが、詳細不明である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・侵食対策事業の継続 ・地域や近隣の文教施設と連携した日常的管理の実現 ・松原保全のための外来植物駆除
眺望	<p>砂浜から内陸方面に、松原越しの富士山を望める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富士山眺望の認知度向上 ・浜崖の解消
利用状況	<p>名勝指定時に農地だった土地が開発され、幼稚園から大学まで複数の文教施設が連なる。</p> <p>市道羽衣海岸線の築造を進めており、開通すると三保松原の玄関口となる。この道路と太平洋岸自転車道が並行して走り、あいだの緑地帯にマツと海浜性の低木が生育する。緑地帯にはベンチや四阿等の観賞施設のほか、複数の祠もある。</p> <p>名勝地区外であるが、折戸地区の中心的存在として瀬織戸神社があり、境内の松は樹齢400年と伝えられている。</p> <p>土地の名を冠する特産品として、折戸なすが広く知られている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の異動や学生の世代交代に影響されない松原教育の体制整備 ・保全活用への教育機関どうしの連携